

## 推 奨 品 種

ハウス夏秋どりピーマン品種「京ゆたか」

(園試 野菜花き部・南部分場)

### 1. 来歴

「京みどり」から果色(濃緑)、「京波」から果型(尻つまり)、多収性、低温伸長性、果実の肥大性を導入。1991年命名発表された。

### 2. 特性の概要

- 1) 収量は「土佐グリーンB」より安定して高く、良果収量が特に高い。
- 2) 果実品質では、乱形果、黒変果等の発生が少ない。
- 3) 果実は細長く、果色は収穫全期間を通じて濃緑であり、光沢も強い。
- 4) 果肉は厚く、日持ち性に優れる。
- 5) 側枝の伸長が旺盛で、節間はやや長めである。

### 3. 推奨品種に採用する理由

最近の市場動向は、これまでの「土佐グリーンB」タイプの果型・肉質から、やや長果傾向の日持ち性を重視した品種へと移行してきている。今回の「京ゆたか」は収量・果実品質・日持ち性が「土佐グリーンB」より優り、現地における試作結果も良好であったことに加え、果実特性についても販売上の問題が認められなかったことから推奨品種として採用したい。

### 4. 適応地域

- 1) 適応地域：県下全域(ハウス夏秋どりを中心とする地帯)

「京ゆたか」は露地栽培品種「下総2号」とは果実の形態が大きく異なるため、同一の選果・出荷はできない。従って、当面はハウス夏秋どり栽培が大半を占めている地帯または、露地ピーマンと分離選果、出荷可能地帯を重点に推奨するものである。

- 2) 適応作型：ハウス夏秋どり作型

### 5. 栽培上の留意点

- 1) 育苗期間中の温度管理は、最低温度を「土佐グリーンB」よりやや高めとし、3本分枝苗の発生を防止する。
- 2) 定植後の初期生育がやや旺盛なので若苗での定植を避け、1番花開花を定植適期の目安とする。
- 3) 樹勢と併せ、側枝の伸長も旺盛なので、徒長枝や生育中期のふところ枝の整理は早めに行う。

## 6. 試験成績概要

表1 収量

品種名	総収量 (kg/a)	(比)	良果収量 (kg/a)	(比)
(対)土佐グリーンB	866.4	(100)	377.9	(100)
京ゆたか	893.9	103	562.1	149
ニューフェイス2号	894.1	103	516.8	137

表2 障害果の発生割合(個数%)

品種名	良果	乱形果	着色不良果	褐変果	黒変果	尻腐れ果	その他
(対)土佐グリーンB	38.6	43.7	5.9	5.0	2.7	4.2	0
京ゆたか	59.4	29.5	5.5	1.2	0.6	3.7	0.2
ニューフェイス2号	52.7	38.3	3.9	0.8	0.1	4.4	0.1

表3 果実の品質(7月)

品種名	果重 (g)	果長 (cm)	果径(cm)		肉厚 (mm)	光沢 <sup>1)</sup>	しわ <sup>2)</sup>	果色 <sup>3)</sup>	硬さ <sup>4)</sup>
			上部	下部					
(対)土佐グリーンB	27.5	7.8	4.1	2.6	2.0	3.0	3	3.0	0.74
京ゆたか	34.5	8.5	4.0	2.6	2.9	4.0	2	3.8	1.02
ニューフェイス2号	30.5	7.7	4.0	3.0	2.0	3.0	2	4.0	0.76

<sup>1)</sup>光沢:弱(1)~強(5) <sup>2)</sup>しわ:少(1)~多(5) <sup>3)</sup>果色:淡緑(1)~濃緑(2)

<sup>4)</sup>硬さ:イマダ製プッシュブルスケールでの測定値(円錐型アタッチメント使用)

表3 果実の品質(7月)

品種名	サブリグ 後の日数	へた部の 褐変(%)	果頂部の しなび(%)		果実全体の しなび(%)	果色 <sup>1)</sup>	硬度 <sup>2)</sup> (kg)	水分 (%)
	0	0	0	0	0	53.98	0.84	100
(対)土佐グリーンB	+3	30	20	0	0	53.31	-	96
	+6	50	20	80	80	51.43	0.82	91
京ゆたか	0	0	0	0	0	49.90	1.07	100
	+3	0	0	0	0	47.53	-	97
	+6	0	10	20	20	46.17	0.90	92
ニューフェイス2号	0	0	0	0	0	51.78	0.89	100
	+3	30	0	0	0	50.64	-	97
	+9	40	10	60	60	50.27	0.89	93

<sup>1)</sup>ミノルタ色彩色差計での測定値:L×b/a(数値が小さいほど緑が濃い)

<sup>2)</sup>イマダ製プッシュブルスケールでの測定値(円錐型アタッチメント使用)